

## 【資料－１】

### 設立趣旨書

球磨川は、熊本県、宮崎県、鹿児島県の九州南部３県にまたがる大河川である。古くから、人吉盆地や八代平野などに度々洪水被害をもたらした暴れ川である一方で、沿川の肥沃な穀倉地帯を潤すなど人々の生活を支えてきた恵みの川である。

また、日本三大急流で名高い舟下りや、尺アユと呼ばれる大型のアユが特に有名であり、全国各地から釣り客や観光客が訪れる観光資源の川である。

八代平野を流れる下流域の球磨川は、都市域での河川空間が有する多様な機能に歴史的背景も加わり、下記３点を同時に満たす工夫を凝らした河川空間の維持管理が必要となっている。

- ① アユをはじめとする魚類等の生息環境に配慮した環境上の機能
- ② 市民の憩いの場としての河川空間にふさわしい風景とする景観上の機能
- ③ 当該地域特有の歴史的土木遺構を保存する文化的機能

上記３つの機能に関する具体的な内容は以下のとおりである。

#### ① 環境上の機能

昭和５０年代まで遙拝堰直下流に存在した瀬が消失するなど、近年、球磨川の下流域における魚類等の良好な生息環境は徐々に失われつつあり、アユの遡上量も減少しているため、魚類等にとって良好な生息・産卵・生育の場等を保全・再生すること。

#### ② 景観上の機能

八代平野部における球磨川沿川では、朝夕の散策やジョギングが盛んであり、広大な高水敷に整備された河川公園では、スポーツやレクリエーションなどの多くのイベントが催され、毎年秋には全国花火競技大会で賑わっている。

このように市民に特に親しまれている河川空間であることを踏まえ、遙拝堰から球磨川堰にかけては、緩やかに湾曲する河岸形状や樹木も含めて、地域にうるおいと安らぎを与える優れた景観とすること。また、球磨川堰及び新前川堰から河口にかけては、護岸や根固ブロック等が景観や水辺空間の利活用等に与える影響も考慮した更なる工夫を行うこと。

#### ③ 文化的機能

約４００年前の藩政時代より行われた八の字堰（遙拝堰）、萩原堤、はぜ塘、前川堤、潮塘、旧前川堰（敷石）などの一連の土木治水事業のひとつである石

ハネが現存、機能しており、萩原堤防の補強対策を行う際には、これに十分配慮した整備を行うこと。

以上3つの観点から、遙拝堰から球磨川河口部に至る下流域を対象として、専門的知見やアイデア等を幅広く聴取し、魚類等の生息環境や景観、水辺空間の利活用等に配慮した河川空間の適切な維持管理に活用するため、「球磨川下流域環境デザイン検討委員会」を設置するものである。